

幕末の志士に影響を与えた朱子学者

浅見 綱齋

今年、新旭町出身の朱子学者 浅見綱齋が亡くなって300年の年にあたります。幕末の志士たちに大きな影響を与えた浅見綱齋とはいったいどのような人物だったのか、歴史をひもといてみましょう。



○朱子学：
儒学一派。中国の宋時代に朱子が大成した学問。

新旭町出身、江戸時代の朱子学者

浅見 綱齋（1652年〜1712年）は、江戸時代の朱子学者です。中江藤樹が亡くなって4年後に、現在の高島市新旭町太田で生まれました。

綱齋は、はじめ京都で医者を目指す、26、27歳頃に山崎闇斎の敬義塾に入門します。この塾には何千人もの門弟がいたとされ、その中で綱齋は、佐藤直方、三宅尚齋と共に崎門三傑と称されました。そして、綱齋自身も錦陌講堂と呼ばれる塾を開き、門弟を教育しました。

綱齋という名は、塾があった京都錦小路の「錦」と、「錦を衣て綱を尚う」＝（錦の上にうすぎぬを着て、その輝きをやわらげる）という中国の教えにちなんだものです。

います。

今年、浅見綱齋が亡くなって300年の年にあたります。綱齋書院保存会ではこの年を記念し、より多くの皆さんに、郷土が輩出した偉人である綱齋の人間像やその功績を知っていただくことを目的に、次のおり講演会を開催します。多くの方々のご参加をお待ちしています。

☎ 社会教育課
(33)4457



▲浅見綱齋の墓（京都烏辺山）

著書が、明治維新を切り開く原動力に

綱齋は、4年の年月をかけ『靖献遺言』を執筆します。この本は、中国の8人の忠臣義士の言行や参考とすべきことをまとめたもので、のちに幕末の志士たちに大きな影響を与え、明治維新を導く志士たちは、この本を詩吟の題材にして吟じ、行動のエネルギーとなりました。

吉田松陰は、獄中でこの本を

熟読し感激したとされ、橋本左内は、常に、この本をふところに入れていたと伝えられています。幕末期の儒学者 梅田雲浜は、松陰に『靖献遺言』で固めた男と評されています。また、高杉晋作や西郷隆盛は、この8人に自分を擬した詩をつくっています。

綱齋が51歳の時に「赤穂浪士の討ち入り」が起こります。当時、この仇討ちの是非について、学者の間でさまざまな議論がなされました。綱齋はこの論争で、とても人間味あふれた解釈をして



▲綱齋書院（新旭町太田に大正13年に建設される）

没三百年 記念講演会

『浅見 綱齋』

日時 11月27日⑩
13時30分～16時

場所 新旭公民館 大ホール

定員 250人

●主催 綱齋書院保存会

【プログラム】

13時30分～
開会

13時45分～
報告「綱齋書院保存会の歩み」

14時～
報告「浅見綱齋の生い立ち」

14時30分～16時
記念講演
「浅見綱齋の印象
～「赤穂義士」論をめぐる～」
同志社大学文学部文化史学科
露口 卓也 教授